

2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法

「一般診断法」による診断表

方法1

診断プログラム:ホームズ君「耐震診断Pro」Ver.4.3

(一財)日本建築防災協会発行の「2012年改訂版
木造住宅の耐震診断と補強方法」で示されている
診断例にならった書式です。

建物概要

建物名称	: 財来一郎(在来軸組構法)
調査日	: 2004年10月01日
診断者	: 財来一郎
備考	: 在来構法
所在地	: つくば市東2-31-18
竣工年月	: 1980年9月(昭和55年)(築10年以上)
建物用途	: 住宅
構法	: 在来軸組構法
プラン	: 補強計画1
建物仕様	: 重い建物
階高	: 1階:2800mm 2階:2800mm
外壁材種	: 木ずり下地モルタル塗壁(2.20kN/m)
地震地域係数 Z	: 1.00
軟弱地盤割増	: 軟弱地盤ではない(1.0)
形状割増係数	: 1階:短辺6m以上(1.00) 2階:短辺6m以上(1.00)
積雪深さ	: 0.0 (m)
積雪割増	: 0.00
混構造割増	: 木造(1.0)
必要耐力割増	: 1階:1.00 2階:1.00
基礎形式	: II 軽微なひび割れのある無筋コンクリート基礎
柱頭柱脚接合部	: III、IV 3kN未満
木製筋かい接合部	: 釘打ち(2-N75程度)以下
床仕様	: II 火打ち+荒板
有開口壁の耐力計算方法	: 有開口壁長による算定
必要耐力計算方法	: 各階の床面積比を考慮した方法
配置低減計算方法	: 偏心率を使用した方法

壁配置図と重心、剛心

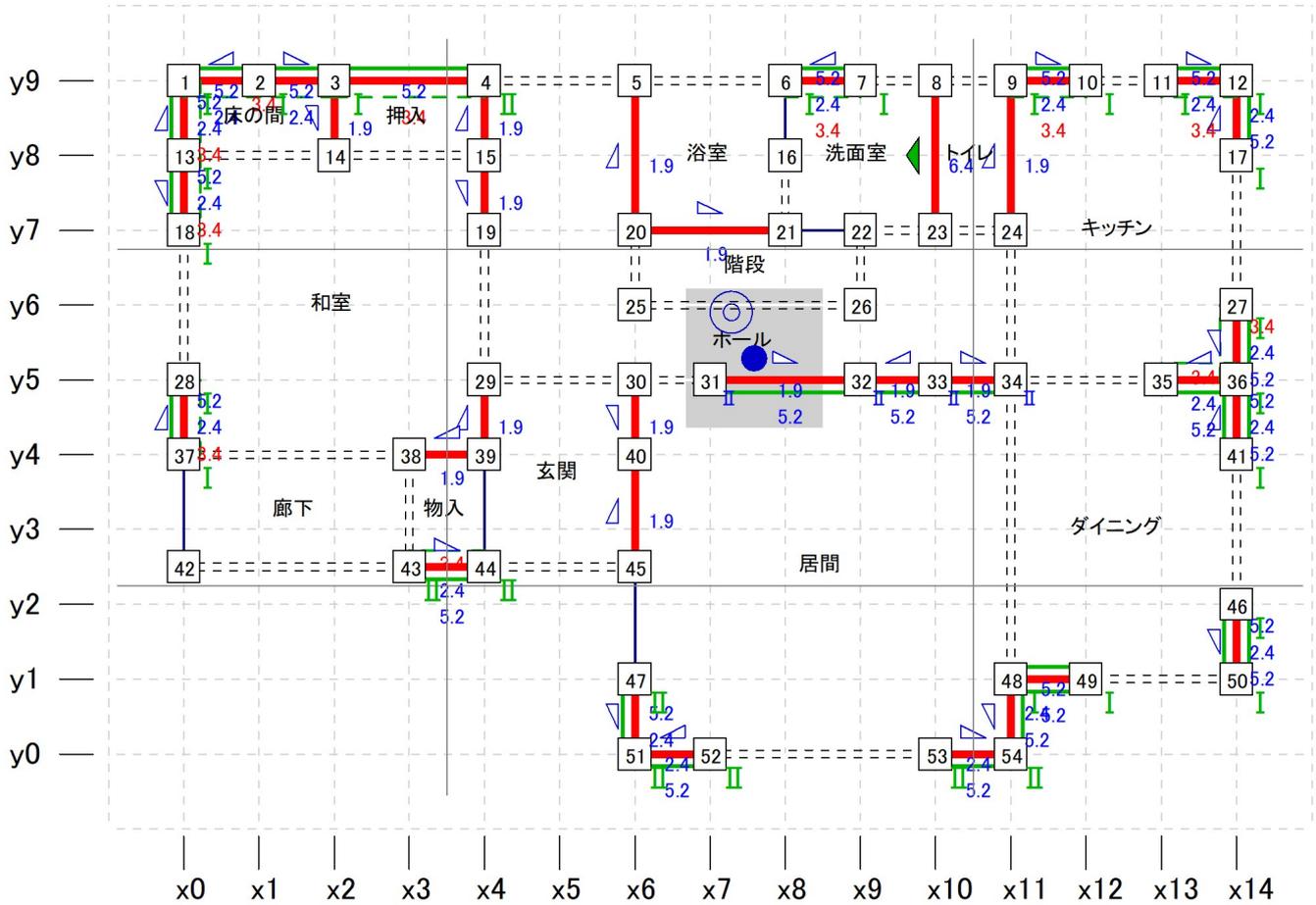
【1階評点】

X方向 1.09 Y方向 1.11

【1階の床面積】

89.44m²

【1階壁配置図】



縮尺:1/90

凡例

- 一般壁 - - - - 開口部 ■ 耐力壁 ▨ ハルコニー ▩ 小屋裏収納等 ▨ オーバーハング □ 柱 ○ 通し柱
- 重心 ⊙ 剛心 ■ 偏心率0.15範囲(剛心が内側にあれば低減無し)
- 現状: △ 筋かいシングル △ 筋かいダブル — 面材耐力壁 - - - 部分入力雑壁 I II 柱接合部 I, II (Ⅲ,Ⅳは表記省略)
- 補強計画: ▲ 筋かいシングル ▲ 筋かいダブル — 面材耐力壁 - - - 部分入力雑壁 I II 柱接合部 I, II

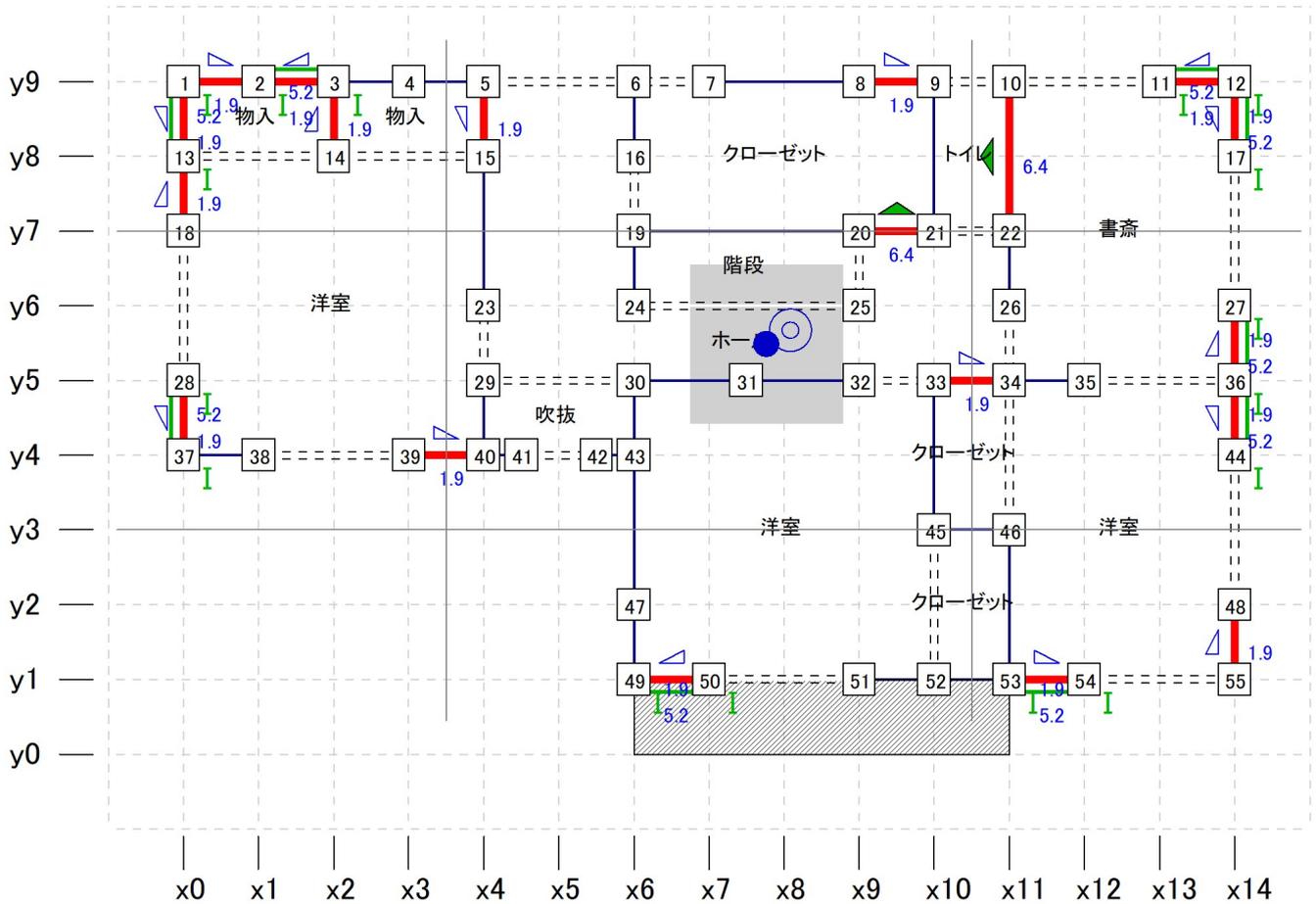
【2階評点】

X方向 1.03 Y方向 1.08

【2階の床面積】

77.85m²

【2階壁配置図】



縮尺: 1/90

凡例

- 一般壁 - - - - 開口部 ■ 耐力壁 ▨ ハルコー ▩ 小屋裏収納等 ▧ オーバーハング □ 柱 ○ 通し柱
- 重心 ⊙ 剛心 ■ 偏心率0.15範囲(剛心が内側であれば低減無し)
- 現状: ▽ 筋かいシングル ▴ 筋かいダブル — 面材耐力壁 - - - 部分入力雑壁 I II 柱接合部 I, II (III, IVは表記省略)
- 補強計画: ▽ 筋かいシングル ▴ 筋かいダブル — 面材耐力壁 - - - 部分入力雑壁 I II 柱接合部 I, II

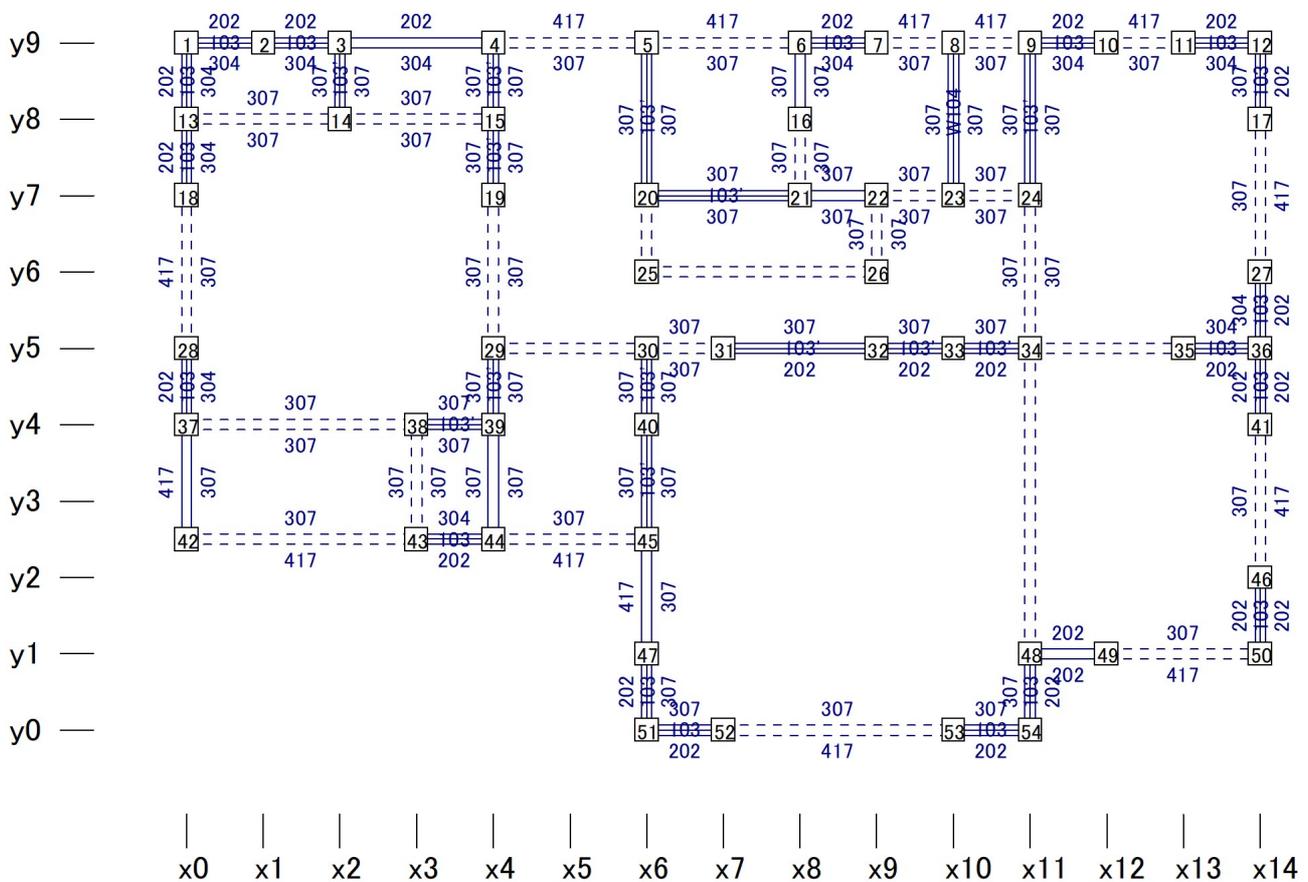
使用壁材一覧と壁材種表示平面図

【使用壁材一覧】

コード	材種	基準耐力 (kN/m)
103	筋かい(30×90)	2.40
103'	筋かい(30×90)(釘打ち)	1.90
104	筋かい(45×90)	3.20
202	構造用合板(大)	5.20
304	構造用合板(非大-ビス@150四)	3.40
307	石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50
417	木ずり下地モルタル塗壁	2.20

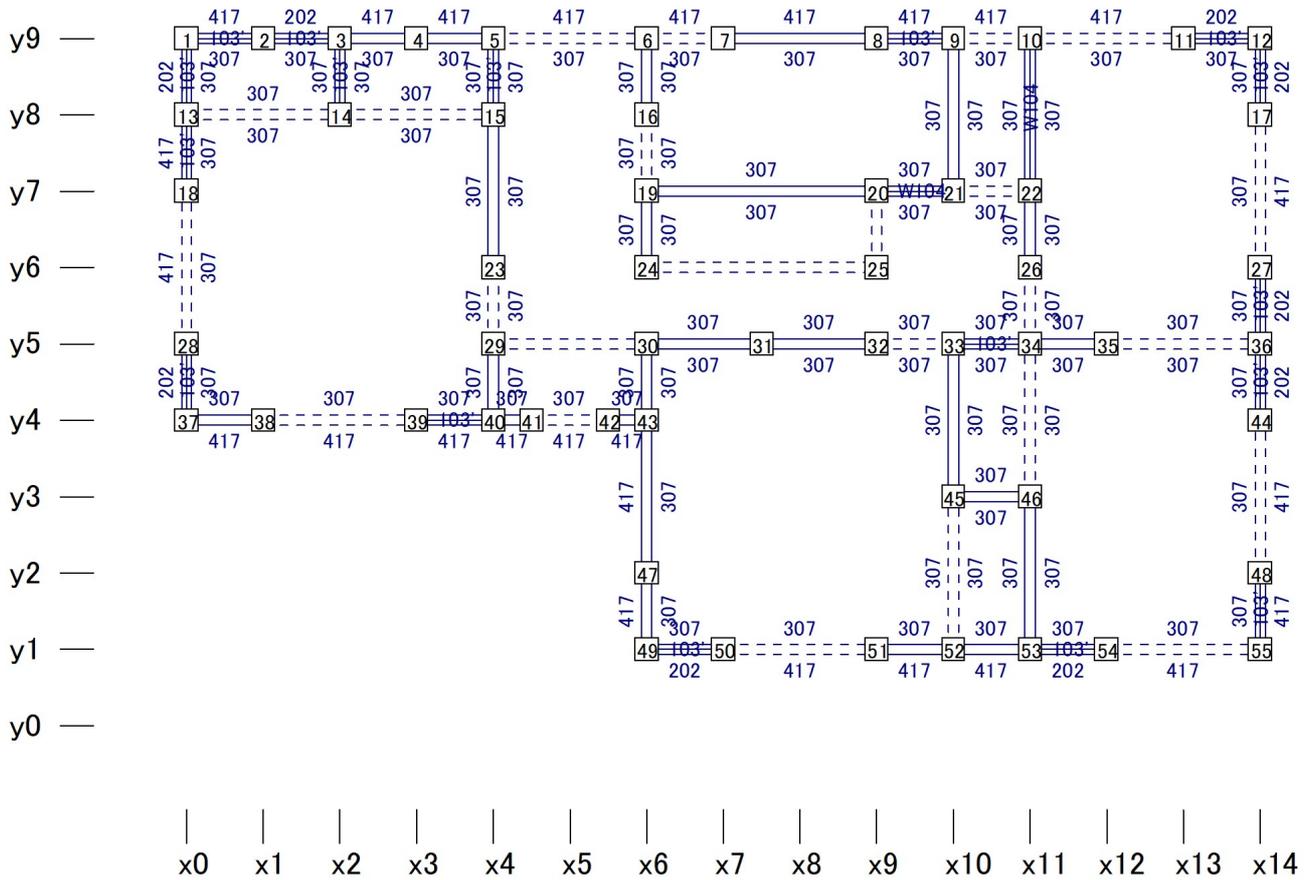
※ 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種は網掛けで塗られて表示。
 ※ 筋かい耐力壁はシングルを表示。ダブルの場合はシングルを2倍にした値を適用。

【1階壁材種表示平面図】



縮尺:1/90

【2階壁材種表示平面図】



縮尺: 1/90

必要耐力の算出

	床面積 (㎡)	床面積 当たりの 必要耐力 (kN/㎡)	積雪用 必要 耐力 (kN/㎡)	地震 地域 係数 Z	軟弱地盤 割増係数	形状 割増 係数	混構造 割増 係数	必要 耐力 割増	必要耐力 Qr (kN)
2階	77.85	0.56	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	43.60
1階	89.44	0.85						1.00	76.03

偏心率の計算

1階X方向

属性	柱1	柱2	Y座標 (m)	耐力 lx	耐震要素 lx × y	ねじり剛性 lx × (y-ys) ²
壁	1	2	8.19	7.28	59.62	57.89
壁	2	3	8.19	7.28	59.62	57.89
壁	3	4	8.19	10.95	89.68	87.07
壁	6	7	8.19	7.28	59.62	57.89
壁	9	10	8.19	7.28	59.62	57.89
壁	11	12	8.19	7.28	59.62	57.89
壁	20	21	6.37	6.24	39.75	6.24
壁	21	22	6.37	2.18	13.89	2.18
壁	31	32	4.55	10.95	49.82	7.36
壁	32	33	4.55	5.47	24.89	3.67
壁	33	34	4.55	5.47	24.89	3.67
壁	35	36	4.55	5.46	24.84	3.67
壁	38	39	3.64	3.12	11.36	9.33
壁	43	44	2.28	6.37	14.52	60.82
壁	48	49	0.91	7.28	6.62	144.81
壁	51	52	0.00	5.79	0.00	166.96
壁	53	54	0.00	5.79	0.00	166.96
			合計	111.47	598.36	952.19

1階Y方向

属性	柱1	柱2	X座標 (m)	耐力 ly	耐震要素 ly × x	ねじり剛性 ly × (x-xs) ²
壁	1	13	0.00	7.28	0.00	320.00
壁	3	14	1.82	3.12	5.68	72.18
壁	4	15	3.64	3.12	11.36	27.89
壁	5	20	5.46	6.24	34.07	8.54
壁	6	16	7.28	2.18	15.87	0.92
壁	8	23	9.10	10.26	93.37	62.59
壁	9	24	10.01	6.24	62.46	71.28
壁	12	17	12.74	6.62	84.34	247.13
壁	13	18	0.00	7.28	0.00	320.00
壁	15	19	3.64	3.12	11.36	27.89
壁	27	36	12.74	7.28	92.75	271.77
壁	28	37	0.00	7.28	0.00	320.00
壁	29	39	3.64	3.12	11.36	27.89
壁	30	40	5.46	3.12	17.04	4.27
壁	36	41	12.74	7.28	92.75	271.77
壁	37	42	0.00	2.81	0.00	123.51
壁	39	44	3.64	2.44	8.88	21.81
壁	40	45	5.46	4.66	25.44	6.37
壁	45	47	5.46	3.82	20.86	5.22
壁	46	50	12.74	7.28	92.75	271.77
壁	47	51	5.46	5.79	31.61	7.92
壁	48	54	10.01	5.79	57.96	66.14
			合計	116.13	769.91	2556.86

2階X方向

属性	柱1	柱2	Y座標 (m)	耐力 lx	耐震要素 lx × y	ねじり剛性 lx × (y-ys) ²
壁	1	2	8.19	5.09	41.69	46.73
壁	2	3	8.19	7.82	64.05	71.79
壁	3	4	8.19	1.04	8.52	9.54
壁	4	5	8.19	1.04	8.52	9.54
壁	7	8	8.19	2.08	17.04	19.09
壁	8	9	8.19	1.17	9.58	10.74
壁	11	12	8.19	7.82	64.05	71.79
壁	19	20	6.37	2.86	18.22	4.18
壁	20	21	6.37	1.71	10.89	2.50
壁	30	31	4.55	1.42	6.46	0.52
壁	31	32	4.55	1.42	6.46	0.52
壁	33	34	4.55	1.11	5.05	0.41
壁	34	35	4.55	0.95	4.32	0.35
壁	37	38	3.64	1.04	3.79	2.40
壁	39	40	3.64	1.17	4.26	2.70
壁	40	41	3.64	0.51	1.86	1.17
壁	42	43	3.64	0.00	0.00	0.00
壁	45	46	2.73	0.95	2.59	5.60
壁	49	50	0.91	7.82	7.12	141.24
壁	51	52	0.91	1.04	0.95	18.78
壁	52	53	0.91	1.04	0.95	18.78
壁	53	54	0.91	7.82	7.12	141.24
			合計	56.92	293.49	579.61

2階Y方向

属性	柱1	柱2	X座標 (m)	耐力 ly	耐震要素 ly × x	ねじり剛性 ly × (x-xs) ²
壁	1	13	0.00	7.82	0.00	423.60
壁	3	14	1.82	1.11	2.02	34.06
壁	5	15	3.64	1.11	4.04	15.36
壁	6	16	5.46	0.95	5.19	3.42
壁	9	21	9.10	1.91	17.38	5.78
壁	10	22	10.01	3.42	34.23	24.01
壁	12	17	12.74	7.82	99.63	226.34
壁	13	18	0.00	1.17	0.00	63.37
壁	15	23	3.64	1.91	6.95	26.43
壁	19	24	5.46	0.95	5.19	3.42
壁	22	26	10.01	0.95	9.51	6.67
壁	27	36	12.74	7.82	99.63	226.34
壁	28	37	0.00	7.82	0.00	423.60
壁	29	40	3.64	0.95	3.46	13.14
壁	30	43	5.46	0.95	5.19	3.42
壁	33	45	9.10	1.91	17.38	5.78
壁	36	44	12.74	7.82	99.63	226.34
壁	43	47	5.46	2.08	11.36	7.50
壁	46	53	10.01	1.91	19.12	13.41
壁	47	49	5.46	1.04	5.68	3.75
壁	48	55	12.74	1.17	14.91	33.86
			合計	62.59	460.50	1789.60

2階

	X方向の壁	Y方向の壁
剛心座標 ys、xs	5.16	7.36
重心座標 yg、xg	4.99	7.07
偏心距離 ey、ex	0.18	0.29
弾力半径 re・x、re・y	6.45	6.15
偏心率 Re・x、Re・y	0.03	0.05

1階

	X方向の壁	Y方向の壁
剛心座標 ys、xs	5.37	6.63
重心座標 yg、xg	4.81	6.91
偏心距離 ey、ex	0.56	0.28
弾力半径 re・x、re・y	5.61	5.49
偏心率 Re・x、Re・y	0.10	0.06

壁の耐力の算定

1階X方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)	
桁行 a	1	2	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	
	2	3	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	
	3	4	構造用合板(大) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 3.40	8.60	×	0.70	×	1.82	=	10.95	-	
	6	7	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	
	9	10	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	
	11	12	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	
	20	21	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	1.82	=	6.24	-	
	21	22	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.80	×	0.91	=	2.18	55.77	-
	4	5	窓型開口	0.60	-	×	-	×	▲1.50	=	-	0.90	
	5	6	窓型開口	0.60	-	×	-	×	▲1.50	=	-	0.90	
	7	8	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	0.27	
	8	9	窓型開口	◆0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	0.27	
	10	11	窓型開口	0.60	-	×	-	×	0.91	=	-	0.54	
	13	14	掃き出し開口	◇0.00	-	×	-	×	▲1.50	=	-	0.00	
	14	15	掃き出し開口	◇0.00	-	×	-	×	▲1.50	=	-	0.00	
	22	23	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	0.27	
23	24	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	0.27	3.42	
桁行 中央	31	32	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.70	×	1.82	=	10.95	-	
	32	33	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.70	×	0.91	=	5.47	-	
	33	34	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.70	×	0.91	=	5.47	-	
	35	36	構造用合板(非大-ビス@150四) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	3.40 2.40 5.20	10.00	×	0.60	×	0.91	=	5.46	-	
	38	39	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	0.91	=	3.12	-	

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

1階X方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)			
	43	44	構造用合板(非大-ビス@150四) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	3.40 2.40 5.20	10.00	×	*0.70	×	0.91	=	6.37	36.84	-	-	
	30	31	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	-	0.27	-	
	37	38	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	2.73	=	-	-	0.81	-	
	42	43	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	2.73	=	-	-	0.81	-	
	44	45	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	1.82	=	-	-	0.54	2.43	39.27
桁行 b	48	49	構造用合板(大) 構造用合板(大)	5.20 5.20	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	-	-	
	51	52	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	1.50 2.40 5.20	9.10	×	*0.70	×	0.91	=	5.79	-	-	-	
	53	54	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	1.50 2.40 5.20	9.10	×	*0.70	×	0.91	=	5.79	18.86	-	-	
	49	50	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	1.82	=	-	-	0.54	-	
	52	53	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	2.73	=	-	-	0.81	1.35	20.21
													計		118.67

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

1階Y方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)		
梁間 a	1	13	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	-	
	13	18	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28			-
	28	37	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(非大-ビス@150四)	5.20 2.40 3.40	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28			-
	37	42	木ずり下地珪藻土塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	*0.56	×	1.36	=	2.81	-		27.77
	3	14	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	0.91	=	3.12	-		
	18	28	窓型開口	0.60	-	×	-	×	1.82	=	-	1.09		-
	38	43	掃き出し開口	◇0.00	-	×	-	×	1.36	=	-	0.00		1.09
梁間 中央	4	15	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	0.91	=	3.12	-	-	
	15	19	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	0.91	=	3.12	-		
	29	39	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	0.91	=	3.12	-		
	39	44	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	*0.60	×	1.36	=	2.44	-		
	5	20	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	1.82	=	6.24	-		
	30	40	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	0.91	=	3.12	-		
	40	45	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	1.36	=	4.66	-		
	45	47	木ずり下地珪藻土塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	0.76	×	1.36	=	3.82	-		
	47	51	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	5.20 2.40 1.50	9.10	×	*0.70	×	0.91	=	5.79	-		
	6	16	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.80	×	0.91	=	2.18	-		
	8	23	石膏ボード(非大-GNF40@200川) X筋かい(45×90) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 6.40 1.50	9.40	×	0.60	×	1.82	=	10.26	47.87		-
	16	21	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	0.27		-
	19	29	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	1.82	=	-	0.54		-

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

1階Y方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)	
	22	26	掃き出し開口	◇0.00	-	×	0.91	=	-	-	0.00	0.81	48.68
梁間 b	9	24	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.70	×	1.82	=	6.24	-	-
	48	54	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	1.50 2.40 5.20	9.10	×	*0.70	×	0.91	=	5.79	-	-
	12	17	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	1.50 2.40 5.20	9.10	×	0.80	×	0.91	=	6.62	-	-
	27	36	構造用合板(非大-ビス@150四) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	3.40 2.40 5.20	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	-
	36	41	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	5.20 2.40 5.20	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	-	-
	46	50	構造用合板(大) / 筋かい(30×90) 構造用合板(大)	5.20 2.40 5.20	10.00	×	0.80	×	0.91	=	7.28	40.49	-
	17	27	窓型開口	0.60	-	×	-	×	1.82	=	-	1.09	-
	24	34	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	1.82	=	-	0.54	-
	41	46	窓型開口	0.60	-	×	-	×	1.82	=	-	1.09	2.72
											計	120.75	

【壁仕様の表記について】

網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁

/ X: シングル、ダブルの筋かい

△: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)

▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

#: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材

▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁

■: 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)

□: 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)

◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口

◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁

×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

*: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

Qwi: 無開口壁の耐力

Qw: 無開口壁の耐力の合計

Qei: 開口壁の耐力

Qe: 開口壁の耐力の合計

Qu: 壁の耐力

2階X方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)		
桁行 a	1	2	木ずり下地珪外塗壁 / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.90 1.50	5.60	×	1.00	×	0.91	=	5.09	-	-	
	2	3	構造用合板(大) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	5.20 1.90 1.50	8.60	×	1.00	×	0.91	=	7.82	-	-	
	3	4	木ずり下地珪外塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	0.31	×	0.91	=	1.04	-	-	
	4	5	木ずり下地珪外塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	0.31	×	0.91	=	1.04	-	-	
	7	8	木ずり下地珪外塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	0.31	×	1.82	=	2.08	-	-	
	8	9	木ずり下地珪外塗壁 / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.90 1.50	5.60	×	0.23	×	0.91	=	1.17	-	-	
	11	12	構造用合板(大) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	5.20 1.90 1.50	8.60	×	1.00	×	0.91	=	7.82	-	-	
	19	20	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	2.73	=	2.86	-	-	
	20	21	石膏ボード(非大-GNF40@200川) X筋かい(45×90) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 6.40 1.50	9.40	×	0.20	×	0.91	=	1.71	30.63	-	-
	5	6	窓型開口	0.60	-	×	-	×	1.82	=	-	1.09	-	
	6	7	窓型開口	0.60	-	×	-	×	0.91	=	-	0.54	-	
	9	10	窓型開口	0.60	-	×	-	×	0.91	=	-	0.54	-	
	10	11	窓型開口	0.60	-	×	-	×	1.82	=	-	1.09	-	
	13	14	掃き出し開口	◇0.00	-	×	-	×	▲1.50	=	-	0.00	-	
14	15	掃き出し開口	◇0.00	-	×	-	×	▲1.50	=	-	0.00	-		
21	22	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	0.27	3.53	34.16	
桁行 中央	30	31	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	1.36	=	1.42	-	-	
	31	32	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	1.36	=	1.42	-	-	
	33	34	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.25	×	0.91	=	1.11	-	-	
	34	35	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	0.91	=	0.95	-	-	
	37	38	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 木ずり下地珪外塗壁	1.50 2.20	3.70	×	0.31	×	0.91	=	1.04	-	-	
	39	40	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 木ずり下地珪外塗壁	1.50 1.90 2.20	5.60	×	0.23	×	0.91	=	1.17	-	-	
	40	41	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 木ずり下地珪外塗壁	1.50 2.20	3.70	×	0.31	×	0.45	=	0.51	-	-	
	42	43	△石膏ボード(非大-GNF40@200川) △木ずり下地珪外塗壁	0.00 0.00	0.00	×	1.00	×	0.45	=	0.00	7.62	-	

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

2階X方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)
	32	33	掃き出し開口	0.30	-	×	0.91	=	-	0.27		
	35	36	掃き出し開口	0.30	-	×	1.82	=	-	0.54		
	38	39	窓型開口	0.60	-	×	1.82	=	-	1.09		
	41	42	窓型開口	0.60	-	×	0.91	=	-	0.54	2.44	10.06
桁行 b	45	46	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.91	=	0.95	-		
	49	50	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.91	=	7.82	-		
	51	52	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 木ずり下地珪藻土塗壁	1.50 2.20	3.70	×	0.91	=	1.04	-		
	52	53	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 木ずり下地珪藻土塗壁	1.50 2.20	3.70	×	0.91	=	1.04	-		
	53	54	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.91	=	7.82	18.67	-	-
	50	51	掃き出し開口	0.30	-	×	1.82	=	-	0.54		
	54	55	窓型開口	0.60	-	×	1.82	=	-	1.09	1.63	20.30
											計	64.52

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

2階Y方向

	柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)	
梁間 a	1	13	構造用合板(大) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	5.20 1.90 1.50	8.60	×	1.00	×	0.91	=	7.82	-	-
	13	18	木ずり下地珪藻土塗壁 / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.90 1.50	5.60	×	0.23	×	0.91	=	1.17	-	-
	28	37	構造用合板(大) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	5.20 1.90 1.50	8.60	×	1.00	×	0.91	=	7.82	-	-
	3	14	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.25	×	0.91	=	1.11	17.92	-
	18	28	窓型開口	0.60	-	×	-	×	1.82	=	-	-	1.09
梁間 中央	5	15	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.90 1.50	4.90	×	0.25	×	0.91	=	1.11	-	-
	15	23	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	1.82	=	1.91	-	-
	29	40	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	0.91	=	0.95	-	-
	6	16	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	0.91	=	0.95	-	-
	19	24	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	0.91	=	0.95	-	-
	30	43	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	0.91	=	0.95	-	-
	43	47	木ずり下地珪藻土塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	0.31	×	1.82	=	2.08	-	-
	47	49	木ずり下地珪藻土塗壁 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	2.20 1.50	3.70	×	0.31	×	0.91	=	1.04	-	-
	9	21	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	1.82	=	1.91	-	-
	33	45	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	1.82	=	1.91	13.76	-
	16	19	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	-	0.27
	23	29	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	0.91	=	-	-	0.27
	45	52	掃き出し開口	0.30	-	×	-	×	1.82	=	-	-	0.54
梁間 b	10	22	石膏ボード(非大-GNF40@200川) X筋かい(45×90) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 6.40 1.50	9.40	×	0.20	×	1.82	=	3.42	-	-
	22	26	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	0.91	=	0.95	-	-
	46	53	石膏ボード(非大-GNF40@200川) 石膏ボード(非大-GNF40@200川)	1.50 1.50	3.00	×	0.35	×	1.82	=	1.91	-	-
	12	17	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	1.00	×	0.91	=	7.82	-	-

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

2階Y方向

柱1	柱2	壁仕様	壁基準 耐力 Fw (kN/m)	Σ Fw (kN/m)	接合部 耐力 低減 Kj	壁長 L (m)	Qwi (kN)	Qw= Σ Qwi (kN)	Qei (kN)	Qe= Σ Qei (kN)	Qu= Qw+Qe (kN)
27	36	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.91	7.82	30.91	-	-	
36	44	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 構造用合板(大)	1.50 1.90 5.20	8.60	×	0.91	7.82		-		
48	55	石膏ボード(非大-GNF40@200川) / 筋かい(30×90)(釘打ち) 木ずり下地珪藻土塗壁	1.50 1.90 2.20	5.60	×	0.23	1.17		-		
17	27	窓型開口	0.60	-	×	1.82	-	-	1.09	2.99	33.90
26	34	掃き出し開口	0.30	-	×	0.91	-	0.27			
34	46	掃き出し開口	0.30	-	×	1.82	-	0.54			
44	48	窓型開口	0.60	-	×	1.82	-	1.09			
									計		67.75

【壁仕様の表記について】

- 網掛け: 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種を含む壁
- / X: シングル、ダブルの筋かい
- △: 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力は0となる)
- ▼: 筋かい接合部による低減ありの木製筋かい

【Fw、ΣFwの表記について】

- #: 壁基準耐力に補正が掛かっている部材
- ▽: 端部に柱が無いため耐力0と扱われる壁
- : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
- : 開口部に挟まれた耐力を評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)
- ◆: 掃き出し開口と連続のため掃き出しの耐力が使用される窓型開口
- ◇: 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力を算定できない開口壁
- ×: 壁材種の基準耐力0のため耐力を算定できない開口壁

【Kjの表記について】

- *: 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【Lの表記について】

- ▲: 開口の連続長3.0m超のため3.0mとなるように低減

- Qwi: 無開口壁の耐力
- Qw: 無開口壁の耐力の合計
- Qei: 開口壁の耐力
- Qe: 開口壁の耐力の合計
- Qu: 壁の耐力

耐力要素の配置による低減係数 eKfl

床仕様		Ⅱ 火打ち+荒板	
		偏心率 Re	配置による 低減係数 eKfl
2F	X方向	0.03	1.000
	Y方向	0.05	1.000
1F	X方向	0.10	1.000
	Y方向	0.06	1.000

劣化度による低減係数 dK

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化 点数	
			築10年 未満	築10年 以上		
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	2	
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある				
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2	
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2	
外壁 仕上げ	木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	④	
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある				
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある				
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある				
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	2	
バルコ ニー 手すり壁	木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	/	①	①	
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある				
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある				
	外部との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある				
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	/	①	1	
内壁	一般室 内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	2	②	2	
	浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	2	②	2
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある			
床	床面	一般室	2	②	②	
		廊下	/	①	1	
	床下	基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	2	
合計				24	7	

劣化度による低減係数 dK 1-(劣化点数/存在点数)= 0.70

※算出結果が0.7未満となった場合は0.7を低減係数とする。

※補強後の診断では、現状の低減係数が0.9未満の場合は低減係数の上限が0.9となります。

現状の低減係数が0.9以上の場合はその値が上限となります。

上部構造評点

階	方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置 eKfl	劣化度 dK	保有する耐力 edQu (kN)	必要耐力 Qr (kN)	上部構造 評点
2F	X	64.52	1.000	0.70	45.16	43.60	1.03
	Y	67.75	1.000		47.42		1.08
1F	X	118.67	1.000		83.06	76.03	1.09
	Y	120.75	1.000		84.52		1.11

総合評価(診断結果)

【地盤】

地盤	対策	記入	注意事項
良い・普通		○	特になし
悪い			
非常に悪い (埋立地、盛り土、 軟弱地盤)	表層の地盤改良を行なっている		
	杭基礎である 特別な対策を行っていない その他		

【地形】

地形	対策	記入	注意事項
平坦・普通		○	特になし
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積 特別な対策を行っていない		

【基礎】

基礎形式	対策	記入	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		アンカーボルト、引き抜き金物が十分な性能を発揮できない場合があります。こうした箇所には補強が必要です。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全	○	
	軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固め+鉄筋コンクリート底盤緊結		
	足固めのみまたは足固め無し		
その他 (ブロック基礎等)			

【上部構造】

上部構造評点 のうち最小の値	評点	判定
1.03	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

【その他注意事項】

特になし

注意事項

- ホームズ君「耐震診断Pro」は、一般財団法人日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価制度において、『2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法』の“一般診断法”および“精密診断法1”に準拠しているとして、評価書（評価番号：P評価12-改2-W）の交付を受けました。なお、ホームズ君「耐震診断Pro」の全機能がプログラム評価の対象ではありませんのでご注意ください。本プログラム評価の適用範囲は下記の通りとなっております。

▼評価対象

「一般診断法」、「精密診断法1」

▼評価対象外

「地震被害想定3次元CG」、「補強ナビ」、「保有水平耐力計算」、「限界耐力計算」、「柱頭柱脚金物算定」、「基準法壁量計算」、「壁の配置」、「梁・桁断面算定」、「プレゼンボード」、「省エネ」、「新耐震木造住宅検証法」

【プログラム評価とは】

「木造住宅耐震診断プログラム評価」とは、一般財団法人日本建築防災協会が実施している制度です。

木造住宅の耐震診断において、基準として広く用いられている『木造住宅の耐震診断と補強方法』が2004年7月に改訂され、診断方法が精緻化されたこともあり、診断プログラムソフトを用いられることが多くなったことを受け、本制度が創設されました。

評価にあたっては、学識経験者・技術者で構成する「木造住宅耐震診断プログラム評価委員会」(委員長 坂本功 東京大学名誉教授)が設置され、耐震診断基準書の解釈やプログラムでの計算処理が正確に行われているか、販売体制、保守サポート体制など、製品のご提供に関しても、詳細な審査が行われました。

- ・ 本ソフトウェアは、一般財団法人日本建築防災協会発行の2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に準拠した結果を出力しています。
- ・ 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法は、耐震補強等の必要性の判定を目的としています。一般診断法において、補強が必要と判定された場合は、さらに精密診断法による判定を実施し、補強の要否の最終的な診断を行って下さい。
- ・ 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」では診断の対象とする地震を、建物がその耐用年数の間にごくまれに遭遇するかもしれない大地震動としています。
- ・ 地震被害想定3次元CGは、“一般診断法”による評点を用いて住宅の耐震性能を表現しておりますが、実際の地震に遭遇したときの倒壊状況を正確に表現してはおりません。このため、地震被害想定3次元CGでは結果が過大に表現される場合があります。
- ・ 実際の倒壊の可能性及び、補強の必要性の判断については、この結果のみで判断するのではなく、“精密診断法”の診断結果を元に、総合的な判断を行なうことを推奨します。
- ・ 本ソフトウェアの診断結果に問題がなくても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。